



世界に希望を生み出そう  
RI 会長テーマ

2023～2024 年度  
大船渡西ロータリークラブ会報  
**七福人**



会 長 紀室 綾子  
副会長 松田 福美  
幹 事 三田地大悟

= 会長指針 =  
希望を胸に心ひとつに

・・・ 例 会 記 録 ・・・

2月第1回例会 2024年2月8日(木)

ソング : 我等の生業      ボックス : 19,000円      (報告者 門田 崇会員)  
お客様紹介 : 大船渡青年会議所理事長 鎌田 俊 様    副理事長 鎌田 智 様  
本日出席率 : 62.50%    前回修正後100% (メーカーアップ 3名)    (報告者 菅野嘉洋会員)

お 客 様



紀室会長へ PHF 感謝状とバッジ贈呈



青年会議所 理事長鎌田俊様 副理事長鎌田智様  
今年度スローガン “挑戦の時代 感じて動く”

★ 会長の時間 : 紀室綾子会長



東日本大震災から13年目を迎える来月11日、震災の犠牲者の追悼と、震災の記憶を決して風化させることなく未来への教訓とする象徴的な場として、みなと公園にある展望広場(鎮魂愛の鐘の側)に、「祈りのモニュメント」が整備され、犠牲者芳名板などが除幕される予定です。

昨年のことですが、自治体の式典に対する遺族の感情について考察する記事があり、その内容をご紹介します。

2023/3/13 サンケイデジタルの記事です。読ませさせていただきます。

心の居場所というものについて、このごろよく考える。

「最初のころは参列してたけど、もう行ってないの」

昨年の3月10日、震災遺族と顔を合わせたときだ。「あすは、市の追悼式に行かれるんですか」と尋ねると、そう返答された。

ああ…と思い当たることもあり、「ご遺族のための式典とは思えませんものね。形ばかりで」と水を向けると、相手はわが意を得たように何度もうなずいた。

「そう。誰のため、何のための追悼式なんだろうって。だから今は自分たちが『ここ』と思う場所でゆっくり悼むことにしたんです…」

私の知る限りだからきっと違う市町村もあるのだろうが、自治体による追悼式典の基本構成は大体同じである。

犠牲者に黙禱(もくとう)をささげ、公的な立場の人が式辞を読み上げ、そして一まずは来賓たちが一人一人、献花を行う。遺族よりも先に。遺族が白菊をたむけるときは一斉に開始され、まるで流れ作業のようにあわただしいのに。

発災10年を区切りとし、追悼式開催を取りやめたり、縮小する自治体も増えている。「遺族のことば」をなくした市町村も多い。遺族の負担を考慮してとのことだが、一番大事なそれが式次第からなくなると、式典はますます形式化されていくように思えた。

先日、市の職員だった娘さんを亡くした知人女性と、3年ぶりにお会いした。「追悼式には行かなくなった」と話していた、先述の方とはまた別の一人だ。

「(市の式典は)娘を悼めるような場所ではない」と感じつつ、さりとて、「では、3月11日にはどこで手を合わせたらいいいのか。どこが自分にとっての追悼の場なのか」と、さまようような気持ちで続けたことを知っている。「あの子が生きていたら今ごろは」「なぜあの子が今、ここにいないのだろう」と考え、怒りとも悲しみともつかない、行き場のない感情を覚えることがあると。

だが、先日会ったときは少し表情が変化したように見えた。「ようやく、自分がいられる場所ができた気がする」—そう口にして。

被災11年目に、市役所庁舎内に、この女性の娘を含む殉職者の刻銘碑が完成した。

彼女をはじめ、職員遺族が中心となって強く働きかけ、建立に奔走していた。そこで知り合った他の遺族らとは、お盆前に碑を掃除したり、3月11日にはともに祈りをささげたり…と、ゆるくつながっている。遺族同士で刻銘碑の前に立っていても特別、肩をたたいて語り合ったりするわけではない。だが、同じ空間にいただけで、「思いを分かち合える人がいる」と安心する。「並んで一緒に手を合わせれば、心から娘を思うことができる」と。

この記事では、震災遺族が自治体の追悼式典に参加しなくなる傾向が見られ、その理由について触れられています。遺族たちは「ここ」と感じる場所でゆっくりと悼みたいと願っており、一部の自治体では追悼式典の基本構成が形式的になりすぎてしまい、遺族の心情に合わないと感じられるようです。

一方で、被災11年目には市役所庁舎内に刻銘碑が完成し、遺族たちが集まって手を合わせたり祈りを捧げたりする場所ができたとのこと。これが、遺族である彼女らにとっての「居場所」であり、お互いに支え合う場となっているようです。大船渡の祈りのモニュメント展望広場もそうあって欲しいものです。特にも鎮魂愛の鐘の存在が、皆さんの心地よさを感じる「ここ」であり、遺族の方々の心を癒す追悼の場となって欲しいと思います。

3月11日の式典が被災者や遺族の方々に心から寄り添い、その深い思いに耳を傾ける思いのこもった式典となることを願っています。

[【東日本大震災から12年 忘れない、立ち止まらない\(5\)】「追悼の場」を求める遺族それぞれの“心の居場所、自治体の式典は「悼めるような場所ではない」行き場のない感情\(2/2ページ\) - zakzak: 夕刊フジ公式サイト \(ctrl キーを押しながらクリックしてリンク先を表示してください\)](#)

## ◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

### 1 例会場変更について

大船渡食堂様から値上げのお願いが出されたことにより、理事会で検討した結果本日から活魚すごう様を例会場とする事となりました。

### 2 ガバナーエレクト事務所より

次年度公共イメージ向上・DEI委員会委員推薦のお願いが届いています。

先ほどの理事会で、松田福美会員にお願いしました。

### 3 ロータリーの友事務所より

2024-25年版ロータリー手帳購入のお願いが届いています。 締め切 2/25

- 4 全国ロータリークラブ野球大会事務局より 能登半島地震へ義援金のお願いが届いています。  
金額10万円 締め切 3/15

新年会で皆様から募金していただいた金額(32,200円)+義援金通帳から拠出で対応いたします。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆



★ クラブ強化部門委員長 松田福美副会長

会員を増強するために、ミーティングを開催したいと思います。

会員1人当たり1名以上の候補者情報を持って出席して頂きたいと思います。

班割は、後日 FAX させていただきます。

★ 三田地大悟幹事

2月5日月曜日 東高校応接室に於いて「1A 三年生を送る会」を実施しました。

会長・新沼達央青少年委員長・菅野小委員長・石川クラブ奉仕委員長・鈴木秀樹国際奉仕委員長  
私 三田地で参加しました。 東海新報にも記事が載っています。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆  
松田福美会員卓話



みなさんこんにちは、本日はアービルさんがお話する予定でしたが、都合が悪くなり代わりに私が話す事となりました。普段セミナーをしているので話し慣れていると思い、会長からのご依頼となったものと思われま。二つ返事で承諾しましたが実はセミナーもしっかりと練習しないと話せないタイプの私です。急な卓話依頼はとても緊張しています。

本日はパワーポイントを使って相続のお話をしようとも思ったのですが、その相続が現実にはわたしの家族で起きたので、今日はその現実におこった「相続」のお話をパワーポイント無しでしたいと思います。そもそも相続とは、お金がある人だけの問題ではなく、お金がある無しに関係なく誰にでも起こるものだと思います。生まれてから亡くなるまで、自分のこれまで作り上げてきた人生の「想い」を誰かに伝える。それが相続だと思います。また「想い」は形のないものですが、形ある財産もあります。財産とは現金だけではないですね。借金や、不動産、会社を経営していれば会社の株もそうでしょうし。私は、実際相続が起こってこの義理の父の残してくれた形ある財産もそうですが「家族への想い」がとても有難かったのでその事についてお話したいと思います。

みなさん、亡くなる確率は何パーセントだと思いますか？そうです。100%です。必ずだれにでも相続が発生するのです。

昨年の12月11日同居していた義理の父が亡くなりました。88才でした。毎日畑で家族のために野菜を作ることを仕事と、し楽しみながら作っていました。義理の父の死を経験して、残された家族として、義理の父が生前してくれていたことで、助かったこと、困ったこと、とてもうれしかったこととお話したいと思います。死因は肺えんです。

亡くなる3日前に医師から死の宣告を受けましたが、そのときはまだふつう食を食べ、ベッドの上で新聞を読み、トイレへも一人で歩いていましたので、医師からの死の宣告は信じがたいものでした。しかし、元気に見える姿に反して医師の宣告した通りにおとろえていき、すい弱し、あっという間に本当に亡くなってしまいました。本人は常日ごろから理想は「びんびんころりだな」と言っていましたので、その通りに亡くなったので、寂しいですが結果本人にとっては良かったのかなと思います。

まず、していて助かったことの一つとして遺影です。10年に一度写真屋さんで撮影し、そのまま遺影として飾れるよう準備をしていました。最近では、写真屋さんではなく私が携帯で撮った写真の中から気に入ったものを写真さんに持っていき、背景をきれいなブルーに修正してもらったりしていましたので、遺影で困ることなく家族としては助かりました。時々人の葬儀に参列して最近の写真が無く、数十年前の写真を使う遺影があったりしますと、葬儀場を間違えてしまったのかと思うことがありますので、いつものお顔の遺影が良いと思います。そして、その遺影が入っていた大きな袋には「葬儀」と「遺言書」と書かれた茶封筒が入っておりました。遺言書は別として、「葬儀」には、死後執り行う順序が指示されており、納骨は初七日か、さらには忌中払いに呼ぶ人まで書かれていました。この事もとても助かりました。

ただ、忌中払いでは故人の遺志とは関係なく、親戚の人たちが自分たちと付き合いが有る無しで最終的に決めてしまい、故人が呼んでほしいと言っていた人が忌中に呼ばれず、後日知らせを聞いてお参りに来たケースがあり、やはり親戚にまるっきり任せるのではなく、故人の遺志に従うべきだったと反省した次第です。また、皆様にはとても大切な配偶者がいると思いますが、私の義父も配偶者である義理の母に対しての言葉を残しておりました。妻へのいたわりと感謝の言葉です。そして後見人として長男である私の夫に託し、残された義母を幸せにしてほしいというものでした。

この書き記した「家族への想いの言葉」に私たち家族は感動し家族みんなで亡き父の遺志を受け継ぎ母を幸せにしたいと強く思いました。「人生、終わりよければすべて良し」と思いますので、皆様には最後の締めくくりの参考にしていただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。